

1982年頃のコンパクト・ディスク発売時の説明文（以下、原文のまま）

コンパクト・ディスクは、現代の最先端を行くデジタル技術をレコードの世界に生かした画期的な性能を持つ新しいオーディオ・システムです。音質は非常に忠実度が高く、雑音は殆どなく、澄んだ迫力のある音を楽しむことができます。それは記録再生の方式が従来のアナログ方式とは全く異なっているからです。

従来のレコードは音の振動そのままを直接溝に刻みこんでいました。しかしC.D.では音楽信号を微細に分解し、それをコンピューター等で使う符号に置きかえて記録します。音は空気振動の波ですが、それをマイク等で電気信号の波にかえます。その波を一秒間に44,100に分解し、そのひとつひとつの大きさを約65,000の段階で表わします。この様にすると音楽信号はすべて数字で言い表わせる事になります。その数字を0か1だけの2進法に置きかえて、ディスク表面に信号のあるなしを表わすパルス符号として記録します。これがPCM方式です。この様に細かく分解しますと、人間の耳では全く分解した事は感知できません。美しいカラー写真を顕微鏡で見ますと、細かい点からなり立っているのと同じです。再生には針を使わずに細いレーザー光線をあてて符号を読みとり、再び元の波形を組み立てる訳です。従って再生時はディスクの表面に全く非接触なので、その寿命は半永久的とも言えます。この様にデジタル方式ですと実際に記録されるのはあるかないかの符号だけですので、たとえ記録符号が歪んだりしてもあるなしだけ判別できれば、全く影響なく完全な元の音が組み立てられます。つまり記録再生時の音に対する影響が大変に少なく、マスター・テープそのままの音が忠実に再生されます。

このC.D.はプロ用デジタル録音システムとほぼ同等の素晴らしい規格を持っています。記録信号は16ビットで、音の大小の幅を表わすダイナミック・レンジは90dB以上と従来より大幅に広がりました。ホールできく生のオーケストラは約100dB程といいますから、ほぼ生に近い迫力を再生できる事になります。もちろんピチパチと言った針による雑音は全くありませんし、SN比は従来より著しく向上、雑音は殆どきこえません。音のユレを生じるワウ・フラッター（回転ムラ等）は測定できない程少なくなりました。左右の音が混じりあってしまうクロス・トークは全くと言っていい程ありません。そして音を汚す歪も従来より一桁少ない0.05%以下となり大変に澄んだ美しい音が再生できる様になりました。

このディスクの信号面は保護膜におおわれており直接外から触れる事はできませんが、レーベルの反対側の光った面からレーザー光線を当てて、符号を読みとりますので、その面に汚れや傷をなるべくつけない様ご注意ください。もし汚れがついてしまった場合は柔らかい布で軽く拭きとって下さい。油等しつこい汚れの場合はエチルアルコールで拭きますときれいにとれます。表面が濡れている場合は乾いた布で拭いて下さい。従来のLP用スプレーやクリーナーはご使用にならないで下さい。